



1 第3回明科地域園小中高協働活動推進委員会研修会（兼：明科小中学校3校研修会）11月10日  
今回は、明北小において、下記の内容で研修会が行われました。

- 1 授業参観「明北小全学級を自由参観」
- 2 全体会 研修報告「子どもに委ねる学び ～石川県加賀市の取組から～」発表者：明北小教頭
- 3 分散会「ウェルビーイング実践校1年目の取組を基に、2年目の取組を基に、2年目の活動の見通しについて、グループに分かれて語り合う。」



## 1 研修報告のまとめ（参加者から）

### (1)「自立した学習者」の育成に向けて

#### ○学習者が自らの学びを調整し、主体的に取り組む姿を目指す

- ・生涯学ぶ力の育成：子ども自身が学習に見通しを持ち、振り返り、調整するプロセスは、生涯学び続ける上で不可欠であると感じられた。
- ・教師の役割の転換：自由進度学習を成立させるためには、一人一人が「自立した学習者」になる必要がある。そのために、教師は「教える人」から「支える人」へと役割を変えていく必要があり、そのための授業改善が求められている。
- ・主体的・意欲的な学び：個人の追究と協働的な学びを自分で選択できるスタイルは、子どもが意欲的に学べる環境づくりの参考になった。自ら学ぶ生徒の姿を目指し、工夫を凝らしていきたい。

### (2)自由進度学習の実践と課題

#### ○新しい学習スタイルへの挑戦について、期待と覚悟の両面性

- ・導入への覚悟：単位内自由進度学習の導入には大きな覚悟が必要であり、ネガティブな懸念よりも前向きな変革へ視点を変える必要がある。
- ・ICTの活用：デジタル教科書を活用しながら、自由進度学習をさらに試みたい。また、高校段階においてもスタンダードスタイルの導入は有効であり、デジタルとリアルの組み合わせが必要だと感じた。
- ・包括的な教育への視点：すぐに導入することが難しい場合でも、「こぼれ落ちる子どもをなくす」という視点で参考にし、実践に取り入れていきたい。

### (3)授業実践への具体的な工夫

#### ○他地域の事例や教科特性を踏まえた具体的な実践へ

- ・他事例の参照：加賀市の取り組みなどを参考に、「自分で考えて動く」子どもを育てる実践へ応用していきたい。

- ・教科での工夫：音楽科などの教科において、実現可能な部分と難しい部分を整理しながらも、ワクワクするような授業づくりを模索していきたい。
- ・準備と見取り：実践を見通した準備には時間を要するが、その分、授業中に子どもの姿をしっかりと見取れるというメリットがある。ゴールを明確にし、教材研究の時間を確保した上で取り組んでいきたい。
- ・情報収集と試行：学び方に関する情報が豊富な時代であるため、多様な方法を試していくことも大切である。

## 2 分散会のまとめ（テーマ：来年度の取組の見通しを中心に）（参加者から）

### (1)他校との交流・連携の成果と意義

#### ○三校合同で行うことによる相互理解や、児童・生徒への教育的効果

- ・相互理解の深化：他校の様子や先生たちの思いを知ることができ、来年度の計画を立てる上で有意義な機会となった。
- ・児童・生徒の成長：役割や活動を通じた異学年・他校間の交流は、児童・生徒の経験を広げ、成長につながっていると感じられる。
- ・地域素材の活用：地域素材を活用した授業や取り組みについて各校で実践を重ね、さらに交流を深めていきたい。

### (2)来年度の実践に向けた展望

#### ○「子どもの思い」を起点とした、前向きで楽しい実践へ

- ・ポジティブな協議：それぞれの立場から「こんなこともできそう」「やってみたい」と話し合うことが楽しかった。
- ・子ども主体の活動：実現のハードルがあったとしても、子どもたちが「やりたい」と思うことであれば、一緒に始めたい。子どもの「やりたい！」という思いを、学習や地域活動へとつなげていきたい。
- ・校種を超えた連携：自身の実践（周囲を巻き込み、児童・生徒が中心となる活動）を、小・中・高の連携の中でどのように展開できるか検討したい。

## 3 今後の課題と意識改革（参加者から）

#### ○より良い連携と実践のための解決すべき課題やマインドセット

- ・意識の共有と戸惑い：子ども主体の行事（運動会など）についての話が多かったが、その他については、具体的に何をしていけばいいのか戸惑いもある。
- ・既存概念の見直し：今まで当たり前に行ってきたことに対して一つひとつ疑問を持ち、見直していくことが、次なるステップにつながる。
- ・協議の質の向上：付箋を書くだけでなく、参加者間のやり取りがより多くなるよう進行したい。

分散会では、研修報告や参加者それぞれの思いや取組をもとに、活発な意見交換が行われました。会場での会話に耳を傾けると、TOCO-TONの取組として、何をどのようにしたらいいのか悩まれている先生もおられました。各校職員間で、TOCO-TONに関わる悩みを気軽に話し合い、思いを共有していくことが大切かと思えます。

今後も、通信「TOCO-TON 明科」に取組（取組に寄せる願いや思いも含めて）を掲載していきます。これまでの各校の実践も含め、子どもを真ん中にして一人一人が自分らしく学べるように、そして、子どもたちのワクワク感や楽しみが広がるように、学校・学年・学級の実践へとつなげていきましょう。